

ポレポレ 倶楽部 通信

発行日 2014年 2月 No.25

発行責任者 高田 次雄

久留米市安武町武島468-2

「出会いの場 ポレポレ」 内

Te l 0942-27-2039

Fax 0942-27-2086

見える化！魅力を伝えるホームページに！

平成 26 年元旦、「拓く」のホームページが内容を充実させリニューアルしました！！

今やインターネットで情報収集するのは当たり前、ホームページは「会社の顔」と言われるほど、重要なメディアになっています。

平成 19 年 6 月オープン以来、法人の概要、事業内容、イベントの告知、ポレポレ倶楽部通信などの情報を発信してきました。しかし、情報更新がほとんどできておらず、メンバーの活躍や、法人がどんな思いをもって、今何に取り組んでいるかが見えませんでした。また、他県からも注目されている地域食堂「三原さん家」など先駆的な取り組みも伝えきれておらず、あまり魅力的なホームページではなかったと思います。

今回のリニューアルでは、これまでの内容を充実させるとともに、「法人の原点」から、「防災・被災地支援」、地域食堂「三原さん家」や移動ボランティア「でてこんの」などの新しい取り組みまで、このホームページを見れば法人が分かるようにしました！また、ブログ機能を追加し、イベントや研修会、法人の取り組みなど毎月更新していくようにしています！

これから、随時更新・改良しながら、「また見てみたい」と思えるようなホームページにしていきたいと思います。是非、<http://www.h-polepole.com> にアクセスして下さい♪

(ポレポレスタッフ 浦川 直人)



目 次

- 2p・・・未来を語るワールドカフェ
- 3p・・・みんなどんな暮らしを描くの（施設見学）
- 4・5p・・・輪がひろがっていく「ひめの会」
- 6・7p・・・誰もが参加でき楽しめる祭りに
- 8p・・・「でてこんの」次の展開に



未来を語るワールドカフェ！

12月12日にワークショップを開催しました。今回は街づくりファシリテーターの山口覚氏をお招きし『ワールドカフェ』という方式により「未来を語る」をテーマに意見交換を行いました。会場となったカリブホールにはスタッフをはじめ、地域の方、学校関係者、他事業所、祭りや実習で関わりのある方など53名の方々にご参加いただきました。

「いろいろな人、世代と一緒に活動し何を得ていると感じますか？」

「地域の人々と『社会福祉法人 拓く』とでやれる！と思える取り組みは？」

この2つのお題に初めは考え込んでしまい変な緊張感に包まれましたが、時間とともに、徐々に雰囲気ながこみましました。次々に意見が出てきて、まさらだったどのテーブルクロス（模造紙）も話し合いが終わるころには、語りつくしたと言わんばかりのメモ書きでびっしりでした。

- ・ 久留米のお祭りに一緒に安武として出場しよう
- ・ 福祉用具だよ、全員集合！で運動会
- ・ そら豆の商品開発、ブランド作りを企画段階から地域の人とする
- ・ ゆるキャラをつくる
- ・ まちコン、ブライダル部門をつくる
- ・ 一緒に温泉を掘る など

思いもよらないユニークな発想もあり、楽しく熱く語られました。できる、できないは関係ないという言葉に押されて出てきた思いやアイデアに気づきもあり、何か実現できたら楽しいだろうなという思いになりました。こういった語り合いの場での出会いが次につながればいいと感じました。

今後も地域とのつながりを深めていき、誰でもが安心できる地域、愛着の持てる街づくりができたらと思います。

(ポレポレスタッフ 稲田 智美)



ワールドカフェとは

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し合いの手法です。

- 本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行います。
- 自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる、場の一体感を味わえます。
- メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られます。
- 参加者数は12人から、1,000人以上でも実施可能です。

みんなどんな暮らしを描くの

◎「こがアベニュー」と「ゆうかり学園」を見学しました。

平成25年12月5日(木)、小春日和の中、ポレポレの保護者や地域の人達で、「住宅型有料老人ホーム こがアベニュー(宮ノ陣町)」、「ゆうかり学園(田主丸)」の2箇所の施設見学をしました。自分達や障がい者が、将来どんな暮らしをしていくのかと行って行くことにしました。

○「住宅型有料老人ホーム こがアベニュー」

高齢化と共に病気をかかえている人が多くなっています。単身で暮らす人、家族がいてもそれぞれが自由に暮らしている中で、いざ介護が必要になった時、家族が介護をする状況にはならないようです。選択肢の1つとして、住み慣れた場所に安心して暮らせる場が欲しいと思い、医療と連携をしている住まいの場である「こがアベニュー」へ期待して行きました。

1階フロワーはとても明るく、高級感がありました。喫茶店があって外部の人や家族とのふれあいもでき、周りの景色もよく、素敵でした。しかし、有料ですので、年金をたくさん持ってないと入れないのかなと思いました。

最終的にどの様な環境がベターなのか、元気うちに考えておかなければならないと感じました。



○「ゆうかり学園」

ここも明るくきれいで、ゆったりとしていました。生活をなさる方々を守るために、衛生面や季節感をととても大切にしているスタッフの心配りを感じることができました。また、共同生活と個々の生活の切り替えがどのようにされているのか、暮らしているみなさんに思いを寄せながら見学しました。

多くの時間を過ごされる場所が、安心して安全な場所であると同時に、そこですべてが完結してしまわないように、視野を広くし、いろいろな選択肢が提供されることが大切だと再認識しました。

(ポレポレスタッフ 渡辺 智香)



輪がひろがっていく「ひめの会」

～障がいのある中高生の子も達や親達が素敵な人生を送るために～

障がいのある子どもやその親御さん達の中には、ストレスや様々な問題をかかえ孤独で、元気や自信や希望を失っておられる方々がたくさんいらっしゃいます。「悩みや思いを打ち明け、共有できる仲間がほしい」「子どもの事を理解してくれる人を増やしたい」「その為のつながりをつくっていききたい」などの願いを持っておられます。

みなさんの気持ちをつなげて、これから先の人生がより素敵で充実したものができるよう、タイムケアの親達やスタッフ、関わって下さる教師達と会を持ちました。その輪はだんだんひろがり、現在では30人以上になりました。

スタート当初は楽しく雑談から始まったこの会ですが、徐々にワークショップなどをし、前向きに生きていけるような話し合いを重ねています。

2月は、タイムケアの先輩で、現在は就労している池田遼さんとそのお母様にお話をいただきました。遼さんは牟田山中学校時代、その特別支援学級で展開されているタイムケア（放課後支援）に通い、高校（久留米学園）に進学しても、毎日牟田山中学校に行き、仲間や地域の人に支えられてきました。卒業後は雇用支援センターを経て本格的に就労しました。高校3年生の時にケアホーム「下宿屋 南の家ほっと」で暮らし始め、いろいろな人に支えられて4年間働いています。今では職場にとっても必要な存在になっています。そして働いたお金で自由にいろんなところに遊びに出かけたり、買い物を楽しんだりしています。今の夢は「お金を貯めて東京に旅行に行く」ことだそうです。お話を聞いた会場の人達は、働くこと、自立して暮らすこと、働いたお金で余暇を楽しむことを具体的に描くことができたのではないかと思います。

このように、ワールドカフェで感想を出し合ったのですが、これから、子ども達にとってどんな出会いや支援が必要なのかということをお互いに考える、ひとつのきっかけになったと思います。

今後も、もっともっと輪をひろげ、「次回も絶対に行きたい」「わくわくどきどき・元気の出るような」会をみんなで創りあげていきたいと思っています。 （ポレポレスタッフ 姫野 健太）



「ひめの会」をつくりました

夏休みに子ども達がしっかり楽しんだタイムケア。「保護者も一緒に打ち上げをしたいね！」との一言から、9月最初の金曜日に集まりました。子ども達は翌日休みでウキウキ、ママ達は、週末の疲れた夕食の準備から解放されほっと一息。みんなで夕食をとり、自己紹介をした後は、子ども達はスタッフさん達と思いいい遊び、ママ達も思いいいおしゃべりに花を咲かせ、あっという間のひと時でした。「これからも集まったら？」の一言から、「毎月1回にして、来られるときに参加したら？金曜日の夜がいいよね。」と、あっという間に定例会に。会の名前も、姫野さんががんばっているから「ひめの会」にしよう！と、あっさり決まりました。

10月の2回目も、子ども達はしっかり遊び、ママ達はしっかりおしゃべり、ストレス解消の楽しいひと時でした。「ただ遊んでおしゃべりだけではねえ。」とっていると、それを見透かしたように3回目はみんなでワークショップ。親も子も、それぞれ自分がまわりの社会とどんなふうにつながっているかを書き出して、それぞれに発表。子ども達もしっかり発表して、ママ達もわが子やみんなの発表に感心しきり。思いもかけないわが子の様子が見え、楽しかったです。

4回目はワールドカフェで、他人のことを否定しないことを前提に、みんな混じり合って、初めての人ともたくさん話して楽しく過ごしました。

1月は鍋パーティ。材料を持ち寄り、久留米大学看護学科の舞弓先生にも参加していただき、楽しい新年会ができました。

2月は「先輩の話を聞こう」と、池田さん親子のお話を聞いた後にワールドカフェ。たくさんの人と出会い、語り合って楽しく過ごしました。

月に一度のこの会は、今では参加者それぞれにとって、大切な時間になっています。自分の言いたいことを話し、自分とは違う思いの人のことを知ったり、新しい出会いがあったりして、つながりが広まり深まっています。みんなの力が合わさって、この会がどんなふう発展していくのかとても楽しみです。

(保護者 佐々木久美子)

障がい児の親として、13年間生きてきました。いろいろなことがありました。いろいろな思いもありました。いいことも悪いことも…。

この想いを、共有しているということ。このことが、親同士の安心感、信頼感につながり、とても楽しく食事をしたり、話をしたり、お勉強をしているような気がします。

このつながりは、がんばっている私たちへのエールだと思います。このつながりを支えて下さっているスタッフの方々に感謝です。

微力ながら、私もこの「ひめの会」を盛り上げていきたいと思っています。

(保護者 高田 美保)

誰もが参加でき、楽しめる祭りに！

第12回ポレポレ祭りへのご支援ご協力ありがとうございました。

今年も多くの方々の応援のおかげで、会場を埋め尽くすほどのお客様にご来場いただくことができました。毎年雨の心配があり、直前まで台風の心配をしましたが、祭りを成功させたいという多くの人の思いが天に通じたのか、4年ぶりに秋晴れのとても爽やかな天候の中開催できました。



《なみえ焼きそば》



《メンバー・地域の小学生との合同開会宣言》

地域の30団体、455名のボランティアのみなさまのご協力のもと、バザーやガレージセール、イベントなど盛大に行うことができ、多くの人に楽しんでいただきました。また、3年連続、東北の被災地南相馬や浪江からB級グルメの浪江焼そば隊をはじめ、20名以上の方々が応援に来て下さいました。福島のご当地ヒーロー「相双神旗（そうそうしんき）ディネード」も登場し、原発に苦しむ被災地の思いをヒーローショー仕立てで誰にでも分かりやすく伝えていただきました。



《相双神旗ディネードとは？》

福島県相双地区を中心に活動しているご当地ヒーロー。

名前の由来は

「負けるんでねーど（負けるんじゃないぞ）」

という福島弁です。



《東北物販コーナー》



《防災コーナーを設置》

今年のテーマは「だっでん(誰でも)まざりおう！」ということで「この祭りを通して、誰もが元気になるような混ざり合い」を目指しました。

実行委員会では、混ざり合いの視点から、今までの祭りを見直すことから始めました。「ステージは誰でも登れるのか?」「ベビーカー、車イスや体が不自由な方への配慮があったか?」など見直すべき点が見えてきました。もっとバリアフリーになるように、段差をできるだけなくしたり、ステージを低くしてスロープを付けたり、ガレージセールなど会場が混雑している中でも通りやすいように配慮するなど取り組みました。



《ガレージセールの会場》

車椅子の方でも通りやすいように通路を広くし、商品が見やすい配置にしました!



《お客様休憩室にキッズスペース》

お子様連れの方でも祭りを楽しんでもらえるようキッズスペースと授乳室を準備!

この祭りでも取り組んだことが、この久留米市に広がれば、だれもがもっと混ざり合えるようになるのではないかと考えています。この祭りが街づくりの一つの種となり、祭りに関わった人達が花咲かせられるようにと願っています。

今後も、ポレポレ祭りがさらに楽しく、そして障がいのあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで誰でも参画できるように努力します。今回の収益も地域のために使いたいと思います。これからもポレポレ祭りへのご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。

(ポレポレスタッフ 林 由香理)

第12回ポレポレ祭り 収支決算

収入の部

項目	金額
広告・協賛	1,905,000
バザー売上	1,471,835
東北売上	272,950
ガレージ売上	488,700
学校交流売上	33,000
手作り作品他売上	170,685
その他	308,508
収入合計 ①	4,650,678

支出の部

項目	金額
通信・印刷代	400,992
バザー材料費	702,905
東北仕入れ費	433,550
材料費	49,072
ステージ設備費	309,514
消耗品費	176,337
その他	1,013,149
支出合計②	3,085,519

第12回収支差額

項目	金額
収支差額(①-②)	1,565,159

繰越金

第11回まで	1,865,043
第12回	1,565,159
合計	3,430,202

第11回ポレポレ祭り収益金

《拓く》

発電機2台 (コンセント等含む) 1,140,370

《地域へ》

安武小学校 80,000
大善寺小学校 80,000
でてこんの 250,525

《東北支援》

(相双神旗ディネード) 359,700

第12回ポレポレ祭りの収益金は

・拓く
・地域支援(地域の学校・でてこんの)
・東北支援
に使用したいと思っています

地域で支える移動支援『でてこんの』

「でてこんの」 次の展開に

高齢の方で、身体が不自由になり、行きたいところに行くのに困っておられる方の移動支援サービスを行う「でてこんの」がスタートしてから2年近くがたちました。

「ポレポレ」から提供された移動支援車（フリーード）とボランティア運転手と事務局で運営をしてきましたが、利用者の方々から多くの感謝の声をいただいています。

無償で運行してきたことで運営資金づくりには苦勞していますが、「ポレポレ倶楽部」からの支援金、多くの方々からの賛助金、カンパを頂いてきました。そしてボランティア運転手の安全運転や事務局の運行プランカによってここまでできました。まさに地域の支え合いの仕組みであると思います。

支援車の走行距離は18,000km、登録利用会員は50名までになりました。そして、最近では月の運行距離が1,000km、1日平均の利用回数は7~8回となっています。最近では4~5名の乗り合わせもできるようになっています。

2年間「でてこんの」を続ける中で、歩きづらい方には玄関から玄関までの移動など、利用したい方の要望と運転ボランティアの調整をするコーディネーターの存在は欠かせないことが分かってきました。そして何より、利用者の方々を移動支援する中で、地域における一つのつながりができ、新しい人間関係が生まれ、それがひいては地域社会を強化するという実感を持ちました。



しかし、無償移動支援サービスの「でてこんの」は、お金や運転ボランティアの確保がなかなか厳しく、継続が難しい状態にあります。これらの課題や経験を生かし、次のステップに入りたいと思っています。そのためにも、過疎地域の交通政策として久留米市の行政の方にも一緒に考えていってほしいと思います。

（でてこんの 運営委員会副会長 筒井 博文）

